

言 寸  
中島 竜太郎

村集研究会が出来た。村の人々はどんな期待をもち得るであろうか。村の人は村がよく存すること、そのためにはどんな条件や制約がのぞかれねばならないか、それにはどうしたらいいかを聞き度いだらう。

それに対する答は、例之ば農村の民主

にしが、農業への国家投資の必要と公衆的資本との斗争とか、極めて一般的に論議にはつきりなれている。けれども、どうしてきかぬ、なれぬはならざりといふ、農村の歴史を村の人々の生活の中から流し出して、彼等に納得せしめる近には大分困難がある。

村集研究会は必ずしも政策的論議の道場やイデオロギーを論ずる地帯はなかり。しかし変化する村落生活の巨細の現象について、村の人が考えていける様々な問題に科学的なメスの力をたこめ、ことか出来るならば、成果の汁一歩であると思ふ。(大阪市立大)